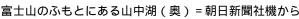
富士五湖の水、 本当にわき水?

伝えられてきた山梨県の富士五湖の定説が覆る年月をかけて地中をしみ通ってわき出した湖と富士山 (3776メートル) に降った雨が長い

しないことが分かった。 のわき水の成分を分析したところ、ほとんど一致 同県環境科学研究所が、五つの湖の水と、 周辺

流水」ではなく、 富士五湖の水はどうやら、地中深く流れる「伏 という。 富士山の表面を流れてきた水ら





成分ほとんど一致せず

海は、 村)のわき水や地下水10カ所を比べた。 忍野八 はり富士山のふもとにある白糸の滝 (静岡県富士 つの湖の場所も深さも異なる42地点の水と、や調査は10年前から研究所が実施してきた。五 宮市) や忍野八海 (日本の名水100選に選ばれている。 (おしのはっかい、

だっ た。 決め手となったのは、 微量元素「バナジウム」

富士山のわき水は、 伏流水が玄武岩の間を数十

山梨県忍野

湖よりさらに深い場所を流れていることが推測 同研究所によると、富士山の伏流水は、 富士五

は、ほとんどが地表を流れてきた雨水や雪解け水識が覆ることになるかもしれないが、五湖の水研究部の輿水達司部長は「これまでの富士山の常 だ」と話す。 調査を担当した同研究所自然環境・富士山火山

が定説で、 従来、 富士五湖の水は富士山の伏流水というの ガイドブックなどでもそう紹介されて

る 拠点・山梨県立富士ビジターセンター(富士河口 光客が訪れる湖の魅力は変わらない」と話してい 湖町)の職員は「伏流水ではなくても、 定説が見直されることについて、富士山観光の 多くの観

【朝日新聞(2010年3月26日】

を多く含んで地上に出てくるとされる。 年にわたってゆっくり流れるうちにバナジウム

なったこの成分に着目して比較したところ、湖水研究所は富士山天然水ブームの火付け役とも の1と極端に少なかった。 のバナジウム含有量はわき水の12~120分

流れ込む雨水がたまったものとみられるという。 で、明らかに水質が異なっていた。 この結果から、富士五湖の水は富士山の山肌から リンの濃度も、湖水はわき水の10分の1以下